

1. 略歴

- 1982年 3月 東京大学文学部国語学専修課程卒業
- 1984年 3月 東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専門課程修士課程修了
- 1984年 4月 東京大学大学院人文科学研究科研究生
- 1985年 10月 防衛大学校人文科学研究室助手
- 1989年 4月 山梨大学教育学部専任講師
- 1991年 4月 山梨大学教育学部助教授
- 1992年 4月 成蹊大学文学部日本文学科助教授
- 1998年 4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授（日本語・日本文学）
- 2007年 4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授（日本語・日本文学）
- 2012年 4月 東京大学大学院人文社会系研究科教授（日本語・日本文学）

2. 主な研究活動

a 専門分野

日本語学 日本語文法・日本語文法学史および言語理論

b 研究課題

現代語・古典語の日本語文法あるいは日本語文法学史および言語理論の研究をテーマとしている。なかでも現代語日本語文法に関する研究を一貫して続けており、これまでに、格構造（受身文、使役文、可能文、授受動詞構文）、テンス・アスペクト構造、言語行為構造（推量文、疑問文）、談話構造、中でも情報構造・視点構造（テンス、授受動詞構文）・期待構造（否定文、数量詞、限定表現、条件文）など、日本語文法をできる限りグローバルにとらえられる枠組を求めて考察を進めてきた。

さらに現代語の成果を古典語に適用して、古典語文法に新たな方向からアプローチをするとともに、従来の文法研究を歴史的にとらえることによって、各時代の文法理論を相対化することも試みている。言語理論に関しては、コミュニケーション行為構造の分析に力点を置きつつ、近年の有力な言語理論の批判的検討を通して、理論的全体像を模索している。

c 主要業績

(1) 論文

- 井島正博、「文末ノダ文の構造と機能」、『国語と国文学』、第89巻第11号、pp101-113、2012.11
- 井島正博、「当為表現の構造と機能」、『日本語学論集』、第9号、pp133-173、2013.3
- 井島正博、「人称表現としてのノダ文」、『学芸国語国文学』、第45号、pp7-20、2013.3
- 井島正博、「数量詞と否定文」、『成蹊人文研究』、第21号、pp1-27、2013.3
- 井島正博、「副詞句と否定文」、『成蹊大学一般研究報告』、第47巻、pp1-26、2013.11
- 井島正博、「上代・中古語の推量表現の表現原理」、『日本語複文構文の研究』、pp249-278、2014.1
- 井島正博、「条件節におけるノダ文の構造と機能」、『日本語学論集』、第10号、pp88-110、2014.3

(2) 書評

- 仁田義雄、『仁田義雄日本語文法著作選第1～4巻』、『日本語の研究』、8巻2号、pp58-63、2012.4

(3) 学会発表

- 国内、井島正博、「問題提起 動詞基本形をめぐる問題」、日本語文法学会第14回大会、早稲田大学、2013.11.30

(4) 教科書

- 『詳説古典文法』、井島正博編著、筑摩書房、2012
- 『精選国語総合』、井島正博共編、筑摩書房、2013

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

- 特別講演、ルーマニア日本語教師会、「日本語のテンスの機能」、2013.9～
- 特別講演、UTokyo フォーラム（サンパウロ大学）、「近現代日本語文法研究史の概観と課題」、2013.11～
- 特別講演、UTokyo フォーラム（サンパウロ大学）、「日本語のテンスの機能」、2013.11～

特別講演、韓国日語日文学会（韓国外語大学）、「ノダ文の構造と機能」、2013.12～

(2) 学会

国内、日本語文法学会、大会委員長、2013.4～